

第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

■令和6年度 第1回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

・ガス成分分析技術を用いた建築材料の燃焼毒性評価に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・安全性を確保した新たな素材の開発に繋がるよう、定量評価と等級化による評価法を開発する。
- ・研究成果を迅速にマニュアル、性能評価業務方法書等へ反映させ、委員会や説明会などを通して、材料開発されている企業や指定性能評価機関に周知する。
- ・想定しているガスの種類以外にも、未知のガス成分が生成する可能性に十分に留意し、危険側の評価にならないよう、適用範囲を明示した評価手法を開発するようにする。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分に留意し、研究を進めて参りたい。

・事務所ビル・学校等における適切な空気環境の確保と省エネ評価に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・必要な換気を確保しつつ省エネも推進できる仕組みの普及に向けて、本研究の成果物として「空調換気設備計画の技術ガイドライン」及び「高度な換気風量制御システムの省エネ効果の評価手法」を広く情報発信していく。
- ・高度な換気風量制御については、適切な換気の維持と省エネ効果を確実に発揮できる要件を整理することで、建物用途を限定することなく住宅にも適用できるものとなるように検討する。
- ・室内環境の確保や省エネの実現は、建物設計時のみではなく、建物運用時の対応も重要であるので、換気に関する実態把握においては、建物管理者等からも情報を収集する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分に留意し、研究を進めて参りたい。

■令和6年度 第2回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

・災害被害等の軽減に資する水道・下水道施設の機能復旧に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・被災時に適用可能な応急復旧技術の検討にあたっては、迅速性に加え、費用面からの分析を行うとともに、能登半島地震の被災事例等を分析し、被災状況等に応じた技術の適用にあたっての課題や留意事項を整理する。
- ・上下水道一体での機能復旧の考え方の整理にあたっては、施設の被害状況を考慮した応急復旧シナリオの設定方法を検討する。また、雨天時の雨水排除についても平行して整理する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・ **地域特性の変化に適応するフレキシブルな水道・下水道技術に関する研究—能登半島地震からの復興計画をケーススタディとして—（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・ まちづくり復興会議の枠組みを活用した地方公共団体との意見交換を継続的に行い、上下水道の復旧と「まちづくり」との連携方策を検討する。
- ・ 人口減少に伴う計画見直しの手法については、ケーススタディの対象となる地方公共団体との情報共有を十分に行い、経済比較に加えて地域の合意形成やまちづくりとの連携を含む検討項目・検討フロー及び計画見直しの判断基準の考え方を整理することにより、現実的に実施可能となる検討手法の提示を目指す。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・ **飲料水健康危機管理に係る浄水処理技術および給水装置の評価に関する研究（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・ 浄水処理分野の研究動向の全体像を整理した上で、本研究の前提、意義、方法論が明瞭に理解できるようにする。
- ・ 各研究項目から得られた成果が、どのように各ガイドラインおよびツールの作成に活用され、飲料水健康危機管理体制の向上や安全・安定した水道水供給につながるのか、一連の流れが明瞭に理解できるよう、アウトプットに留意する。
- ・ 給水装置の迅速な安全性評価手法の確立にあたっては、毒性評価が定まっている未規制や未認証の化学物質等の原体を想定し、当該化学物質の物性・毒性情報ならびに浸出モデル式によるヒト曝露量の推定結果を通じて迅速な安全性評価を実施することで、飲料水健康危機管理に係る速やかな行政対応につなげることが出来る成果が得られるよう、研究を進める。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■ **令和6年度 第3回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）**

・ **係留施設の地震後の即時利用や容易な応急復旧を可能とする新たな耐震設計法の開発（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・ 港湾構造物の専門家のほか、道路橋分野等など他分野の専門家とも議論を深め、設計法の妥当性を検証する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分に留意し、研究を進めて参りたい。

- ・ **ブルーインフラの広域的な環境への効果に着目した新たな評価手法の研究（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・ブルーインフラがもたらす効果の定量化手法・推定手法と関連する既往知見に基づき、本効果を定量化・推定する際に課題となりうる点を把握し、その上で評価手法が検討できるよう考慮する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分に留意し、研究を進めて参りたい。